

2024 | 春 |

あんず

K y o r i n M a g a z i n e A n z u

vol. 11



02 …… キャンパスカレンダー
 04 …… 新年度のご挨拶
 06 …… 令和6年度 事業計画
 08 …… 令和6年度 学園予算
 09 …… 人事情報
 10 …… 学生情報
 11 …… 付属病院の施設認定、付属杉並病院開院、ご寄付について



11月 学生達が日本各地と連携して特産物を紹介するクラフトマーケット。3回目となる今回は2日間でのべ1,300人が来場。防災意識を高めるブースも賑わった。



11月 井の頭キャンパスで国際交流の集いを開催。中国・ベルギーなどからの留学生や在学学生、教職員など約70人が交流を楽しんだ。



3月 令和5年度卒業式を挙行

学部生・大学院生合わせて1,328人が卒業。式典は、午前、午後に分かれて行われ、保護者も多数参列。またライブ配信も行われた。



4月 令和6年度入学式を挙行

学部生・大学院生合わせて1,437人が入学。松田進勇記念アリーナで午前、午後に分かれて実施され、吹奏楽部による歓迎の演奏も行われた。



11月 第99回関東大学バスケットボールリーグで優勝。11月に行われた入れ替え戦では3部昇格が決定した。



11月 第9回医学部白衣式を挙行。4年生108人が白衣を授与され、臨床実習に臨む決意を誓う。



12月 保健学部の各学科では、9月から12月にかけて4年生による卒業研究発表会が実施された。



1月 31社の企業採用担当者を招いて行われた学内合同企業研究セミナーに、3年生を中心としたのべ約600人の学生が参加した。



2月 総合政策学部、外国語学部で今年最初のオープンキャンパスを開催。高校生や保護者95人が参加した。



3月 イギリス レスター大学で開催された約3週間の医学英語セミナーに、医学部1年生から4年生合わせて33人が参加した。



4月 4月1日に医学部付属杉並病院が開院。同日、開院式が行われ、学内関係者約110人が参加した。



4月 井の頭キャンパスで3日間にわたり、クラブ・サークル新歓イベントが行われ、多くの新生で賑わった。

2024年度 ご挨拶



理事長
松田 剛明

2024年度の4月より新たに医学部附属杉並病院の運営が開始されました。当病院の開院の主たる目的は、新宿以西の東京の医療体制をより充実させ、本学の臨床医療を得意とする人材の活躍の場を拡充することにあります。杉並病院は病床数340床の中規模病院で、各科の医師やメディカルの間でのコミュニケーションが取りやすい環境となっています。市村病院長のリーダーシップの下、三鷹の付属病院と連携を図りつつ、縦割り診療ではなく、快く患者を受け入れる全人的・総合医療体制を構築します。また、救急医療体制の充実を図り、断らない救急の実践を目指します。

入学式の式辞でも述べましたが、大学においては渡邊学長の指導の下、広く世界に目を向け、勉学に加えてスポーツをはじめとする課外活動にも力を入れ、自分自身のオリジナリティを確立することができる学生を養成していきます。本学は変革と挑戦の時を迎えており、私は皆様と共に未来を切り拓いていく覚悟であります。学園関係者の皆様におかれましては、共に学び、成長し、未来を築いていくために、ますますのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学長
渡邊 卓

新型コロナウイルス感染症の蔓延もやや落ち着きを見せ、社会の動きは一見、コロナ以前に戻りつつある様にも思える今日この頃ですが、最低限の感染対策は今しばらく維持しておく必要がありそうです。さて、本年4月1日には東京都杉並区和田に、第二の付属病院となる「杏林大学医学部附属杉並病院」が無事、開院致しました。本学がこれまで培ってきた「あたたかい心のかよう良質な医療」を、より広範な地域の皆様を提供することのできる絶好の機会となります。三鷹の医学部附属病院との緊密な連携により、本学の診療並びに教育、研究機能の格段の強化、発展が期待されるところです。

一方、文系学部を中心として、本学におきましても少子化の影響が顕在化しつつあります。教育内容や学生支援体制の更なる充実を図り、受験生に選ばれる、より魅力のある大学を目指すことが喫緊の課題となっております。今年は、このような課題にも本腰を入れて取り組んで参ります。皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、新年度のご挨拶とさせていただきます。



医学部附属病院長
近藤 晴彦

新年度となり、今年も初々しい学生や新入職者の皆さんを迎えることとなりました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックもおさまり、この頃は対面でのイベントも増えてきました。対面といいますが、医療においても患者さんからの情報を医療スタッフが共有してチームでケアすることが本質ですので、その元となる対面でのコミュニケーションの重要性が改めて認識されるどころです。

4月からは新しい医学部附属杉並病院が活動を開始しましたが、隣接医療圏にある本院との関係を活かして、地域の患者さんのお役に立てるように連携してまいります。また、いよいよ医師の働き方改革が本格化します。大学病院には診療(厚生労働省管轄)のみならず教育・研究(文部科学省管轄)の3つの役割が求められているため、医師への負担は元々大きなものでした。これから、単に勤怠管理をするだけでなく、同時に業務効率化やタスクシフト、DX推進など大きな変革を進めていかねばなりません。短期的な視点ではなく、医学部、学園と一緒に取り組んで、当院の理念「あたたかい心のかよう良質な医療」を継続しつつ、改革に努めていきたいと考えております。



医学部附属杉並病院長
市村 正一

杏林大学医学部の付属病院はこれまで三鷹の大学病院のみでしたが、この4月1日から新たに「杏林大学医学部附属杉並病院」が開院いたしました。340床という一般病床数は、杉並区では最多となります。29の診療科を有し、常勤医は約100人(研修医4人含む)です。杉並区和田2丁目、環状7号線に面したところに所在しています。立正佼成会から譲受された当院は、旧佼成病院の頃から10年以上にわたり、杏林学園の教育関連施設として、多くの杏林大学の医学部卒業生が働いておりました。建物は免震構造を採用し、屋上庭園や敷地全体での豊かな緑化、保水性・透水性インターロッキング舗装材の採用によるヒートアイランド対策など、病院全体が環境に優しいエコホスピタルとなっております。

杉並区に杏林大学の2つ目の付属病院ができたことで、三鷹の本院との緊密な連携が可能となり、これまで以上に広い地域の患者さんへの診療が容易となります。また、医学部のみならず保健学部の卒業生の活躍の場が広がることも大いに期待されます。杉並病院をどうぞよろしくお願い申し上げます。

学部長 新年度にあたって

医学部



医学部長
医学研究科長
平形 明人

コロナ禍を経て、ネット環境が整備され、学会や講義などの集会形態もハイブリッド形式が可能となり、AV利用の学習方法なども進歩しました。ポストコロナの社会は、コロナ以前に戻るのではなく、新たな形に進化しています。

一方、学生教育においては、元の対面形式に戻り、その場の空気を分かち合いながら教える学び合うことが、教育を深めるために重要であることが再認識されています。ビデオやネット学習では講師の情熱は伝わらず、議論も十分にできません。医学は生きた学問であり、現在の常識が数年後には非常識になることが少なくありません。教員や先輩、同級生と、異なる意見や新しい情報を咀嚼、吸収する機会を持ちながら学び合うことが、基本だと思います。2024年度は、海外を含めた学外施設との交流や学生のクラブ活動や自由研究プログラムなどをさらに促進させたいと存じます。また、研究分野においては、臨床研究センターをオープンし、臨床研究が実施しやすい環境整備を検討いたします。皆様のご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

保健学部



保健学部長
保健学研究科長
田口 晴彦

保健学部は今年度807人の新生を迎え入れました。新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行して以降の最初の入学生であります。また、感染症の世界的流行が医療、保健医療体制、そして人間が本来大切とする社会的なつながりに大きな影響を与えることを、身をもって知った若者たちでもあります。

保健、医療、福祉、心理領域を学びの対象とする保健学部では、新入生はもとより在学生に対して、基礎となる医学教育や各分野の専門教育、そして学内実習に力をいれ、確かな知識と技術を教授します。そして杏林大学医学部附属病院をはじめとする多くの病院や近隣の地域医療機関、保健・福祉施設とも連携して、少数制の現場教育を実践して行きたいと考えています。さらに、教員が学生一人ひとりに親身になって接することで「思いやりの心」を涵養するように努めて参ります。引き続き、保健学部の教育活動へのご理解とご協力を宜しく願っています。

総合政策学部



総合政策学部長
内藤 高雄

総合政策学部は今年、40周年を迎えます。1984年に社会科学部として創設し、2002年に総合政策学部に変更しました。このような節目の年に学部長として学部の舵をとることを大変光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いであります。

総合政策学部は社会の課題を多角的にとらえ、行動できる人材を育成することを教育目標にしております。また学部創設以来、person to personをモットーに、手作りの教育を心がけてきました。これらの学部の基本方針は、今後も堅持していくべきものであると考えております。しかしながら現代社会は日々刻々と変化しております。時代の変化に対応し、社会の要請に応えるため、私どもは不断の改革を続けております。10年後、20年後にも受験生にとって魅力的で、夢のある学部にするべく、歩み続けていきたい、そしてそれがこれまで学部を支えてくれた先輩教員の方々や多くの卒業生たちに対する使命であると考えております。

外国語学部



外国語学部長
国際協力研究科長
坂本 ロビン

今年、私はキャンパスの美しい桜を眺めながらより深い感謝の念を抱きました。毎年、桜が咲く春は希望と再生の感覚に包まれますが、この4年間の新型コロナウイルス感染症は、それが当たり前ではないことを教えてくれました。例えば、外国語学部では留学生を受け入れることができませんでした。しかし、昨年4月ぶりに彼らを迎え、学部の発展に果たす彼らの役割の重要性を再認識できたことは大きな喜びでした。4月には中国の名門大学から、5月にはアメリカのテキサスA&M大学から20人以上の学生たちが訪れました。留学生たちは文字通り学部生に新しい世界をもたらしてくれ、共に楽しみながら学びました。ことばで人とつながることは、私達の心を豊かにしてくれます。今年も桜の花のように留学生の到着を待ち望んでいます。学部生たちが社会に貢献できる人材へと成長する上で、大きな影響を与えてくれることでしょう。また、留学生たちも、生涯の友を得た喜びとキャンパスの思い出を胸に、それぞれの母国に帰ってくれることを願っています。

令和6年度 事業計画（重点事業）

学園事務局

重点事業 (1) 教育の質向上に向けた取り組み (2) 研究体制の強化 (3) 優秀な学生確保 (4) キャリア支援の向上 (5) 情報基盤の整備 (6) 地域交流活動 (7) 医療体制 (8) 学園運営体制の整備 (9) 財務体質の強化

重点事業・項目	具体的施策
1 教育の質向上に向けた取り組み	
＜医学部＞ ・医学教育分野別評価にかかわる改善事項の対応（継続）	・日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価の結果を踏まえ、受審の過程で明らかとなった改善を求められた事項について、教育改善委員会等が検討し、外部委員を含めて教育評価委員会の意見を参考にし、次回の医学教育分野別評価の受審を視野に入れ、新たな課題に取り組み、医学教育の充実を図る。
・医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)への対応	・改定された医学教育モデル・コア・カリキュラムに示された医師に求められる資質・能力に基づく学修目標を参考にし、現行カリキュラムを精査の上、必要な改訂を行う。特に総合的に患者・生活者を見る姿勢を意識した低学年からの早期体験学習プログラムの充実、情報・科学技術を生かすための学習方法、アクティブラーニングを促す学習プログラムの改善を図る。
＜保健学部＞ ・国家試験指定規則の改定に伴うカリキュラム再編	・令和6年度は言語聴覚士の国家試験受験に係る厚生労働省の養成所指定規則改定が見込まれており、科目の再編を実施する計画である。
・退学抑止への取り組み	・コロナ禍で低学年者に退学事例が頻発、対面行事の制約が主因と考えられたことから、令和5年度より担任による学生面談を密に実施、学生相談窓口の充実も図り、効果が上がった。令和6年度もこれを継続する。
・入試改革への取り組み	・「重点事業3.優秀な学生の確保」に記載
＜総合政策学部＞ ・受験生のニーズに適應した新カリキュラムの検討	・令和8年度実施を目標に、カリキュラム改正の検討を行う。ベーシック科目、コア科目、応用科目という形で、学問の体系に沿って作成してきたカリキュラムの在り方について、刻々と変化する時代の要請や受験生のニーズに真に合致しているか等の観点から再検討を行う。
・入試改革への取り組み	・「重点事業3.優秀な学生の確保」に記載
＜外国語学部＞ ・成果の測定とカリキュラム・マネジメントの確立	・新カリキュラム完成年度に伴い、新・旧カリキュラムの学修課程の質の検証と成果測定を行うことにより継続的な質保証に向けて更なる改善を図る。
・入試改革への取り組み	・「重点事業3.優秀な学生の確保」に記載
＜医学研究科＞ ・学生確保のための取り組み	・学修・研究環境の見直しを行い、大学院進学にあたり学業への専念を希望する学生、社会人として勤務と学業の両立を希望する学生など、就学期間中の様々なニーズに対応できる学修・研究体制の構築を目指す。
＜保健学研究科＞ ・データサイエンス分野の研究促進	・データサイエンス教育研究センターが開設されたことを大学院の特徴の1つとして掲げる。従来、同分野は医用画像解析で多く応用されてきたが、画像領域に限らず応用可能な他の保健医療領域でも研究への応用を促す。
＜国際協力研究科＞ ・博士前期課程への進学者増加のための取り組み	・様々な機会や媒体で学生募集を試みると同時に本学の学部生の内部進学率増加に取り組む。
＜データサイエンス教育研究センター＞ ・MDASHリテラシーレベルの認定継続	・令和6年度においても、数理・データサイエンス・AI教育の全学的な取り組みを続け、MDASHリテラシーレベルの認定を継続する。
＜高大接続推進室＞ ・高大連携協定締結校との入試改革の展開	・協定校制（型）の入試を総合政策学部と外国語学部で令和5年度より構築・実施し、その取り組みを保健学部にも展開を広げて、更に充実を図っていく。
＜国際交流センター＞ ・グローバル人材の育成	・国際理解セミナーを実施する、語学サロンとライティングセンターの連携運営により語学学習の効果を高める。
＜図書館＞ ・学習・教育支援	・学生への専属図書館員（サポート・ライブラリアン）サービスを充実させる。
＜学生支援センター＞ ・障がいのある学生への支援体制の推進	・障がいのある学生への合理的配慮が2024年4月から義務化されるため、基本方針および規程の策定を進める。周知に努め、実態のある制度として学内への浸透を図る。
＜保健センター＞ ・心身の健康支援	・健康診断、予防接種、感染症予防、感染症抗体検査、メンタルヘルス対策、外傷・疾病の応急措置及び保健に関する知識の普及・啓発等を行っていく。
2 研究体制の強化	
＜医学研究科＞ ・学際的な教育・研究体制を強化するための取り組み	・教室間の交流を通じた学際的な教育体制の強化および医学研究科内の研究力向上を目指し、引き続き研究交流会を開催する。アンケート結果等を踏まえ交流会に係る課題等の検討を行い、より充実した内容での開催を目指す。
＜国際協力研究科＞ ・FD活動の推進および外部資金獲得件数増加の奨励	・FDを通じて大学院生と大学の協力関係を強化する。
＜データサイエンス教育研究センター＞ ・共同研究体制の立ち上げ	・共同研究のフェーズ定義、管理体制の明確化、共同研究窓口の設置等の施策により効率的な運営体制の構築を行う。
＜研究推進センター＞ ・各種補助金・助成金等の獲得のための支援	・各種補助金・助成金等の採択数向上を目指し、必要な情報提供、コーディネートをきめ細かく行い支援を実施する。研究資金申請未経験の特に若手研究者を対象に、ファーストステップとなる研究計画の策定、研究計画調書の作成に関する勉強会・チュートリアルを実施する。
・全学的な研究体制の構築・学際的研究の拡充	・幅広い学問領域を網羅する総合大学の特長を活かし、学際的な研究を行う体制を構築する。
＜男女共同参画推進室＞ ・男女共同参画に係る情報の収集	・教職員を対象としたワーク・ライフ・バランスに関する実態調査を実施し、各学部および教員、職員それぞれの課題を抽出する。
＜図書館＞ ・文献取り寄せサービスによる研究支援強化	・必要な文献をILL（図書館相互貸借）で取り寄せて提供し、研究支援を行う。

重点事業・項目	具体的施策
3 優秀な学生確保	
＜入学センター＞ ・井の頭・三鷹キャンパスを軸として入試広報・入試実施の推進	・一段と進行する少子化による競争率緩和、高校新課程の導入対応等、今後の動向を注視しつつ、引続き入学試験の円滑な運営を行う。
・効果的な入試方法を提案し、入学試験の円滑な運営を図る ：入試実施	・前年度入試の課題及び改善点を検証し、引き続き保健学部・総合政策学部・外国語学部の指定校、協定校、試験日程、試験方式の見直しを図り、効果的な入試方法を提案する。
＜保健学部＞	・推薦型入試選抜の一部として指定校入試を取り入れ、総合型選抜においても試験をその目的に即した内容に変更した。令和7年度入試に向けて入学実績を持つ近隣の高校に対して、積極的に広報を展開するとともに、総合型選抜の一部として優秀な学生を対象にした協定校入試を導入する。
＜総合政策学部＞	・昨年度は連携校に対する総合型選抜を新たに導入した。今年度は総合型選抜および学校推薦型選抜の結果を分析し、連携校以外でも指定校制をはじめとした学校推薦型選抜等で毎年良い生徒を送ってくれる高校との関係を維持・強化していく。
＜外国語学部＞	・①総合型選抜と学校推薦型選抜を強化、指定校及び協定校を拡充し、ターゲット校とのリレーションを深め、学部のアドミッションポリシーを踏まえた上で、年内入試における選抜方法や基準を見直す。②学部の魅力や教育力が受験生により分かりやすく伝わるようにホームページを改修する。③広報活動を戦略的に行い、オープンキャンパス来場者および資料請求者の接点情報をも有効に活用し、定着化を図る。④入学者の質向上の指針として、初年度の英語能力試験の目標点数を継続して設定する。
4 キャリア支援の向上	
＜キャリアサポートセンター＞ ・アフター/ウイズコロナに対応した就職支援の強化	・「より早く、より強く、よりきめ細かく」をモットーに教員との連携を更に深めながら就職支援を実践し、環境の変化にも柔軟に対応できる“しなやかさ”を発揮しながら学生と真摯に向き合っていく。
5 情報基盤の整備	
＜総合情報センター＞ ・情報セキュリティ対策の強化と情報セキュリティ教育の推進 (ネットワークの安定稼働、教職員へのセキュリティ意識の浸透)	・学園ネットワークの安定稼働の継続のため、技術的対策、および人的対策（教職員向け情報セキュリティ教育）を推進する。 ①脆弱性診断の実施によりシステム上のセキュリティ課題を洗い出し、今後の情報セキュリティを重視した安定稼働の検討に繋げる。 ②教職員に対して情報セキュリティ意識の斉一的な浸透・向上を図る。
6 地域交流活動	
＜地域交流推進室＞ ・連携自治体を舞台とした産学官連携活動の強化	・地域連携センター・地域総合研究所を核とした地域志向研究の取組内容に合致した地域を舞台とした活動を推進していく。
7 医療体制	
＜付属病院＞ ・健全な病院経営と特定機能病院としての地域医療への貢献	・病床の効率的運用のためのPFM (Patient Flow Management) 体制の整備
1. 健全な病院経営と診療内容の質的向上	・中長期計画を視野に入れ費用対効果を勘案した整備の推進
2. 院内感染防止対策の強化と医療安全の推進	・手術室の効率的運用による手術件数の増加他
3. 職員の勤務環境改善と人材育成の推進	・新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策の徹底等
4. 地域医療機関との連携強化	・医師の働き方改革に関する取り組みの継続、各職種のタスクシフトによる業務負担軽減の推進、診療支援室設置による医師事務作業補助体制の充実と業務拡大等
	・杉並病院との連携強化、ICTを利用した近隣医療機関との連携強化、初診患者数の増加、地域医療機関との役割分担を目指した逆紹介の推進等
＜付属杉並病院＞ ・確実な事業継承による地域医療への貢献と健全な病院経営	・外来および入院患者に対する混乱のない診療の継続、新病院の周知活動の強化、大学病院に相応しい質の高い医療の提供、医師の働き改革への対応、がん診療の充実
1. 確実な事業継承	・地域医療機関との連携強化、断らない医療の実践、紹介率、逆紹介率の向上、専門外来の充実、画像検査の外部依頼件数の増加
2. 地域医療への貢献	・手術件数の増加、効率的な病床運用による病床稼働率の向上、紹介患者数の増加、予防医学センターの充実と健診者数の増加、医師事務作業補助体制の充実
3. 健全な病院経営への転換	
8 学園運営体制の整備	
＜広報部門＞ ・入試広報の充実強化と杉並病院の知名度向上に注力	・多くの受験生や保護者に見てもらえるようホームページの充実を図る。杉並病院の開設を地域に広く知らしめる広報を行い、杉並病院の広報業務体制を確立する。
＜総務部門＞ ・私立学校法の施行に向けた準備	・令和7年4月施行私立学校法の改正に向け、寄附行為の変更等、関係規程の改正等、準備を進める。必須となる内部統制システムの整備も進める。
＜人事部門＞ ・人材の確保について	・杏林学園が求める職員採用を安定的に進めるために、より戦略的に早期の採用プランを作成し計画的に実行する。
9 財務体質の強化	
・財政基盤の健全化	・令和3年度に策定された「第2期中期財務計画」(①当年度収支差額の恒常的黑字化、②施設設備計画と連動した資金計画の策定と実行、③当年度収支差額を黒字とした予算編成と執行)の基本方針に基づき、令和6年度においても予算管理に努める。

事業計画の詳細は、大学 HP「経営・財務情報」に掲載しています。

令和6年度 学園予算

資金収支予算の概要

総資金収入は793.80億円、総資金支出は753.50億円の規模である。令和5年度(決算見込)からの繰越金は77.64億円。令和6年度予算の翌年度に繰越す金額は80.09億円となる予算となった。

< 資金収支 >

収入の部 (単位：億円)		
科 目	令和6年度予算	令和5年度予算
学生生徒等納付金収入	118.39	118.61
手数料収入	4.67	4.42
寄付金収入	4.69	4.18
補助金収入	24.28	25.17
資産売却収入	0.00	0.00
付随事業・収益事業収入	6.26	6.05
医療収入	525.81	423.43
受取利息・配当金収入	0.19	0.15
雑収入	4.43	2.21
借入金等収入	0.00	20.00
前受金収入	20.24	19.48
その他の収入	84.80	88.84
小 計	793.80	712.60
資金収入調整勘定	△100.68	△84.76
前年度繰越支払資金	77.64	75.91
収入の部合計	770.76	703.75

支出の部 (単位：億円)		
科 目	令和6年度予算	令和5年度予算
人件費支出	288.69	232.99
教育研究経費支出	36.55	34.07
医療経費支出	264.73	221.80
管理経費支出	34.14	30.19
借入金等利息支出	1.12	1.30
借入金等返済支出	9.72	31.22
施設関係支出	28.32	34.54
設備関係支出	20.14	16.91
資産運用支出	11.02	12.20
その他の支出	58.03	57.98
予備費	1.00	1.00
小 計	753.50	674.24
資金支出調整勘定	△62.82	△55.33
翌年度繰越支払資金	80.09	84.85
支出の部合計	770.76	703.75

※百万円未満を切り捨て、合計額においては差異を生じる場合がある。

事業活動収支予算の概要

事業活動収入計は689.70億円、事業活動支出計は687.19億円である。その結果基本金組入前当年度収支差額は2.51億円の収入超過予算となった。

令和5年度(決算見込)の前年度繰越収支差額は△973.21億円、令和6年度(予算)の当年度収支差額は△45.08億円となり、翌年度繰越収支差額は△1,018.29億円の予算となった。

< 事業活動収支 >

教育活動収支 (単位：億円)				
教育活動収支	事業活動	科 目	令和6年度予算	令和5年度予算
		事業収入の部	学生生徒等納付金	118.39
		手数料	4.67	4.42
		寄付金	4.15	4.27
		経常費等補助金	23.07	23.80
		付随事業収入	6.26	6.05
		医療収入	525.81	423.43
		雑収入	4.32	2.10
		ア) 教育活動収入計	686.69	582.72
	事業支出の部	人件費	291.72	236.94
		教育研究経費	54.84	52.36
		医療経費	298.43	251.90
		管理経費	39.43	35.49
		徴収不能額等	0.01	0.01
		イ) 教育活動支出計	684.45	576.72
		A) 教育活動収支差額	2.24	6.00
		受取利息・配当金	0.19	0.15
		その他の教育活動外収入	0.00	0.00
		ウ) 教育活動外収入計	0.19	0.15
		借入金等利息	1.12	1.30
		その他の教育活動外支出	0.00	0.00
		エ) 教育活動外支出計	1.12	1.30
		B) 教育活動外収支差額	△0.93	△1.14
		経常収支差額 (A+B)	1.31	4.85
	特別収支	資産売却差額	0.00	0.00
		その他の特別収入	2.82	2.12
		オ) 特別収入計	2.82	2.12
		資産処分差額	0.59	0.65
		その他の特別支出	0.02	0.01
		カ) 特別支出計	0.62	0.67
		C) 特別収支差額	2.20	1.45
		D) [予備費]	1.00	1.00
		基本金組入前当年度収支差額 (A + B + C - D)	2.51	5.30
		基本金組入額	△47.59	△49.18
		当年度収支差額	△45.08	△43.88
		前年度繰越収支差額	△973.21	△1,009.24
		翌年度繰越収支差額	△1,018.29	△1,053.12

事業活動収入計 (ア+ウ+オ)	689.70	585.00
事業活動支出計 (イ+エ+カ+予備費)	687.19	579.69
事業活動収支差額 (A + B + C - D)	2.51	5.30

※百万円未満を切り捨て、合計においては差異を生じる場合がある。

予算・決算の詳細は、大学HP「経営・財務情報」に掲載しています。

人事情報

2024年度 杏林学園役員

役 職	氏 名	現 職
理事長	松田 剛明	学園長・大学教授
理 事	松田 博青	大学名誉教授
理 事	渡邊 卓	学園長
理 事	平形 明人	大学医学部長
理 事	田口 晴彦	大学保健学部長
理 事	内藤 高雄	大学総合政策学部長
理 事	坂本ロビン	大学外国語学部長
理 事	近藤 晴彦	大学教授(付属病院長)
理 事	柴原 純二	大学教授(保健学部教務部長)
理 事	望月 秀樹	大学教授(保健学部教務部長)
理 事	進邦 徹夫	大学教授(総合政策学部教務部長)
理 事	岩本 和良	大学教授(外国語学部教務部長)
理 事	市村 正一	大学特任教授(付属杉並病院長)
理 事	鈴木典比古	前公立大学法人国際教養大学理事長・学長
理 事	今村 知明	公立大学法人奈良県立医科大学教授

役 職	氏 名	現 職
監 事	則定 衛	弁護士・元東京高等検察庁検事長・元法務事務次官
監 事	石井 道遠	元国税庁長官・元(株)東日本銀行特別顧問

2024年度 就任教授

学 部	所属教室/学科	氏 名	職 位
医 学 部	消化器内科学	大森 鉄平	臨床教授
医 学 部	眼科学	北 善幸	臨床教授
医 学 部	顕微解剖学	宮東 昭彦	研究教授
医 学 部	整形外科	佐々木 茂	臨床教授
医 学 部	呼吸器内科学	皿谷 健	臨床教授
医 学 部	産科婦人科学	鈴木 淳	臨床教授
医 学 部	消化器・一般外科学	鈴木 裕	臨床教授
医 学 部	病理学	谷口 浩和	臨床教授
医 学 部	予防医学	徳永 健吾	臨床教授
医 学 部	精神神経科学	中野 正寛	臨床教授
医 学 部	皮膚科学	早川 順	臨床教授
医 学 部	消化器内科学	松浦 稔	臨床教授
医 学 部	循環器内科学	矢田 浩崇	教授
医 学 部	予防医学	湧川 温子	臨床教授
保 健 学 部	リハビリテーション学科作業療法学専攻	岩崎也生子	教授
保 健 学 部	救急救命学科	玉田 尚	教授
保 健 学 部	リハビリテーション学科理学療法学専攻	橋立 博幸	教授
保 健 学 部	リハビリテーション学科理学療法学専攻	村松 憲	教授
外国語学部	英語学科	八木橋宏勇	教授

2024年度 大学役職者

役 職	氏 名
学長	渡邊 卓
学部長(医学部)	平形 明人
学部長(保健学部)	田口 晴彦
学部長(総合政策学部)	内藤 高雄
学部長(外国語学部)	坂本ロビン
医学研究科長	平形 明人
保健学研究科長	田口 晴彦
国際協力研究科長	坂本ロビン
医学部付属病院長	近藤 晴彦
医学部付属杉並病院長	市村 正一
付属図書館長	大木 紫
医学分館長	大木 紫
井の頭分館長	渡辺 剛
データサイエンス教育研究センター長	坪下 幸寛
キャリアサポートセンター長	真野 靖久
国際交流センター長	宮首 弘子
入学センター長	稲垣 大輔
学生支援センター長	古本 泰之
研究推進センター長	櫻井 裕之
保健センター長	徳永 健吾
総合情報センター長	大森 拓哉
地域連携センター長	石井 博之
高大接続推進室長	八木橋宏勇
男女共同参画推進室	成田 雅美
教務部長(医学部)	柴原 純二
教務部長(保健学部)	望月 秀樹
教務部長(総合政策学部)	進邦 徹夫
教務部長(外国語学部)	岩本 和良
学生部長(医学部)	渡邊衡一郎
学生部長(保健学部)	橋本 雄幸
学生部長(総合政策学部)	斎藤 崇
学生部長(外国語学部)	古本 泰之
医学研究科 教務担当	大西 宏明
保健学研究科 教務担当	竹田 里江
国際協力研究科 教務担当	岡村 裕

2023年度 定年退任教授

学 部	所属教室/学科	氏 名
医 学 部	顕微解剖学	秋元 義弘
医 学 部	呼吸器・甲状腺外科学	平野 浩一
医 学 部	腎臓・リウマチ膠原病内科学	要 伸也
保 健 学 部	健康福祉学科	照屋 浩司
保 健 学 部	リハビリテーション学科	八並 光信
外国語学部	英語学科	長谷川弘子

学生情報

在学生数 (2024年4月 現在)

学部	学生数
医学部	729
保健学部	3,090
総合政策学部	985
外国語学部	1,010
学部合計	5,814
大学院	計
医学研究科	48
保健学研究科	96
国際協力研究科	34
大学院合計	178
総計	5,992

2024年度 入学者数

学部	学生数
医学部	119
保健学部	807
総合政策学部	248
外国語学部	207
学部合計	1,381
大学院	学生数
医学研究科	3
保健学研究科	43
国際協力研究科	10
大学院合計	56
総計	1,437

2023年度 学位授与者数

学部	人数	累計学位授与数
医学部	109	4,763
保健学部	642	11,689
総合政策学部	250	11,203
外国語学部	252	9,926
学部合計	1,253	37,581
大学院	人数	累計学位授与数
医学研究科	21	1,165
保健学研究科	35	474
国際協力研究科	19	1,153
大学院合計	75	2,792
総計	1,328	44,361*

*看護専門学校生含む

2023年度 国家試験結果

学部	資格	国家試験合格率(新卒)	全国平均
医学部	医師	99.1%	95.4%
保健学部	臨床検査技師	97.9%	88.0%
保健学部	社会福祉士	84.6%	58.1%*
保健学部	看護師	100%	93.2%
保健学部	保健師	100%	97.7%
保健学部	助産師	100%	99.3%
保健学部	臨床工学技士	98.1%	79.5%*
保健学部	救急救命士	93.3%	94.2%*
保健学部	理学療法士	100%	95.3%
保健学部	作業療法士	93.8%	91.6%
保健学部	診療放射線技師	98.1%	86.3%
保健学部	公認心理師	88.0%	90.1%

*既卒を含めた全国平均

2023年度3月卒業 学園長・学長賞 授与者

医学部	浅野愛祐美	小澤 大機	今井 裕也
保健学部	細谷 美月	久城 由歩	高山 楓
総合政策学部	小俣 英嗣	小澤 彩夏	横溝 由奈
外国語学部	石塚 愛彩	土方 柚葉	山本 拓馬

2023年度 就職率 (2024年5月 現在)

学部	学科	就職率
総合政策学部	総合政策学科	98.6%
	企業経営学科	97.3%
外国語学部	英語学科	100%
	中国語学科	100%
	観光交流文化学科	100%

2024年度入試 志願者数

学部	学科	専攻	志願者数	
医学部	医学科		3,976	
	臨床検査技術学科		671	
			225	
	健康福祉学科		1,965	
		看護学専攻	看護養護教育学専攻	431
	臨床工学科		255	
	保健学部	救急救命学科		191
		リハビリテーション学科	理学療法学専攻	831
			作業療法学専攻	237
			言語聴覚法学専攻	137
	診療放射線技術学科		915	
	臨床心理学科		269	
	小計			6,127
総合政策学部	総合政策学科		560	
	企業経営学科		358	
小計			918	
外国語学部	英語学科		402	
	中国語学科		118	
	観光交流文化学科		219	
	小計			739
総計			11,760	

杏林大学医学部付属病院の施設認定

■東京都難病診療連携拠点病院に継続指定

東京都では難病に関する医療提供体制の充実を図るため、2018年から東京都難病診療連携拠点病院と難病医療協力病院を指定しています。当院は難病診療連携拠点病院に指定されてきましたが、2024年3月に任期満了を迎えた後、引き続き指定を受けました。13の連携拠点病院のうち、23区外における唯一の大学病院となります。

難病は多臓器にわたる疾患が多く、全診療科が揃う当院では、診断から専門的治療まで幅広く対応することが可能となり、指定難病全338疾患のうち、290疾患の診断、252疾患の治療を行っています。今後も多摩地区の難病診療の拠点病院として地域の医療に貢献していきます。

■東京都アレルギー疾患医療専門病院に指定

東京都では様々なアレルギー疾患を有する人が適切な医療を受けられるよう、専門的なアレルギー疾患医療を提供する拠点病院と専門病院を指定し、診療のネットワークを形成することでアレルギー疾患医療全体の質の向上を進めています。当院は、2024年度に小児科を対象にアレルギー疾患医療専門病院に指定されました。指定期間は2028年度までの5年間です。専門性の高い医師が、アレルギー疾患の患者指導が可能な看護師、薬剤師、管理栄養士と連携しながら引き続き診療を行っています。

杏林大学医学部付属杉並病院が開院

2024年4月1日、杏林大学の新しい付属病院として、杏林大学医学部付属杉並病院が東京都杉並区和田に開院しました。当院は、立正佼成会附属佼成病院として運営されてきましたが、2023年5月31日に宗教法人立正佼成会と事業譲渡契約を締結し、杏林学園に譲渡されたものです。(診療科数29、病床数340)

当院は、東京都指定二次救急医療機関として、24時間365日、小児科をはじめ各科で救急診療に対応しています。予防医学センターでは、質の高い医療システムを用いて予防医学に取り組むと共に、杉並区の健診施設として区民の健康管理にも寄与します。

杉並区で初となる大学付属病院が誕生したことで、東京の新宿以西の医療を強化すると共に、三鷹市に所在する医学部付属病院と緊密な連携を取りながら、より一層、地域社会に貢献することを目指します。



あたたかいご支援に感謝

学生支援のための教育研究募金や医療を充実させるための付属病院へのご寄付等に多くの皆様からご支援を賜りましたこと、深く感謝を申し上げます。ご寄付はそれぞれの用途・目的に沿って有効に活用させていただいております。

■2023年度ご寄付状況の報告

寄付の種類	累計件数	累計金額
教育研究募金	26件	64,395,510円
医学部付属病院へのご寄付	37件	35,983,454円
奨学寄付金	202件	243,925,207円
杏林大学リサイクル募金	16件	36,608円

※奨学寄付金の中には、研究寄付講座寄付金(7件)を含む

●お問い合わせ先:杏林学園募金事務局(経理課内)
〒181-8611東京都三鷹市新川6-20-2
TEL:0120-50-1665(フリーダイヤル)
E-mail:bokin@ks.kyorin-u.ac.jp

杏林学園
募金サイト



■クラウドファンディングを開始

杏林大学は、研究活動を通じてより一層、社会貢献に取り組むため、READYFOR 株式会社との提携によるクラウドファンディングを開始します。本学の教育研究プロジェクトの推進・発展に向け、皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。(主管部署:公的資金企画管理課)





あんず Anzu 2024 | 春 |

学校法人 杏林学園

2024年5月31日発行

発行 学校法人 杏林学園

企画・編集 広報室

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

TEL.0422-44-0611

(表紙の写真は医学部付属杉並病院の屋上庭園)